

# 2012 アンコール遺跡群 (1)

## 第1話 「日本から シェムリアップへ」

□am 4:00 頃に起きて支度を始め、am 5:50 にタクシーで出掛ける。 今日 2 / 20 ・



よく冷えてい る朝だ。これから訪れる「真夏のカンボジア」に、服装を合わせ出掛けてきたから寒い!! バスセンターから、福岡国際空港行きの高速バスに乗り込み am 6:30 に出発した。

□am 7:00 ころ、空は東雲色に変わり ... そのあと真っ赤な太陽が昇ってきた。 筑紫野から太宰府にかけて、車窓に広がる田畑もいらかの波も、真っ白の残雪で被われている□

そんな景色の中、8:00 丁度、空港に着いた。

広い構内は、期待していたようには暖かくない。

そして、行き交う多くの利用客のほとんどが、真冬並みの服装をしている ... 夏服姿は、私たちだけだ。

これから真夏の国へ行く人たちも沢山いる筈だが、防寒着を着たまま行くのかしらね?? ... 荷物になるよね?? ... それでもいいのかしらね?? .... などと、余計な心配が、しばらく頭から離れなかった。



□am 11:40□**タ**

**イ国際航空□TG649 便**で出発。福岡空港の空は快晴 無風で、実に静かに飛び上がった。私たちはこれから、タイのバンコクを経由して、**カンボジアのシェムリアップ**空港へと向かうことにしている。そしてシェムリアップのホテルで3連泊をして、明日からの「**アンコール遺跡群の観光**」を楽しみにしているのである□

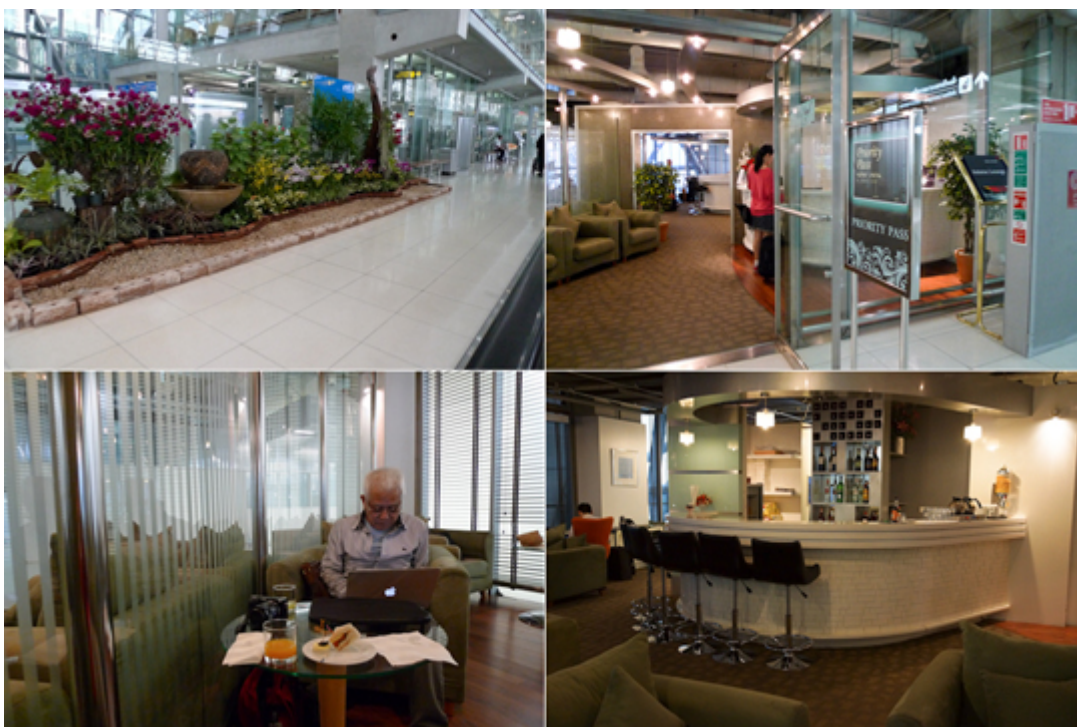


□今回初めて搭

乗するタイ航空は、ここ福岡と関空線に、日本航空とのコードシェア運航を行っている□**女性客室乗務員はタイの民族衣装に身を包み、タイの伝統的な「合掌する挨拶」で乗客を迎えてくれています。** タイ航空はまた、機材の新しさと整備技術の高さから、航空会社の安全度ランキングでは□A□をマークするそうですよ。



飛行は安定  
して揺れもなく、6時間弱のフライトの後、現地時刻 15:20 にバンコク国際空港  
に着陸した。私たちはこの空港でトランジット ... シェムリアップ空港に向けての出  
発は 19:20 の予定なので、4時間の待ち合いとなった。  
こうした時に重宝するのが有料ラウンジである。



ここでは、美  
味しいサンドウィッチや飲み物が自由に戴ける。そしてインターネットの Wi-Fi  
環境も快適で嬉しい。たとえ1泊の短い旅行でも、私が必ず携帯する物 それは  
「カメラ」と「ノートパソコン」それに「メモ帳とペン」である。これらを使っ  
て、ラウンジでは「旅日誌や写真の整理」そして「メール」や「ブログ関連の作業」  
などが、ゆっくり落ち着いて出来るから嬉しいんです。



このラウンジをpm□時半まで利用して、搭乗口 C1A へと行く。そして、バンコク国際空港を随分遅れて19:40頃に離陸した。これから1時間ほどの飛行時間があるなと思っていたら、**何と30分と少しのフライト ... シエムリアップ空港には 20:20 に着陸した。** なので、搭乗して間もなくして配られた出入国カード・並びに税関申告書を書くために時間をとられ、機内サービスの飲み物とスナックには、手をつけぬままに飛行機を降りるはめとなった□

□  
□**シエムリアップ国際空港は、「アンコール国際空港」との愛称もあるそう**で、アンコール・ワットの南西に位置しています。飛行機からタラップを降りて、空港建物まで歩いて行きます。

何ともローカルなほのぼのとした雰囲気空港でほっとしたものです。

□**カンボジアへの渡航はVISAが必要**なので、私たちは、事前に日本で取得して来たのですが、**シエムリアップ空港での空港VISAの取得には、そんなに大変なことはな**



さそうでした□

さて、空港の出口には、日本語を話す現地ガイドさんが、ネームボードを持って待っていてくれました。今回のお迎えの女性のガイドさんは名前が「アンさん□□□ベージュ色の制服は、シェムリアップ政府公認のガイドさんという意味らしいです□

□空港から町中までは、車で約20分位いと近いです。タクシーで7ドル、トゥクトゥクで4ドルくらいだそうです□

こうして夜9:30頃だったか、やっとシェムリアップのホテルに到着です。ガイドのアンさんが、ホテルのチェックインを済ませてくれて、明日の集合時刻を告げたあと帰って行った。



ホテルの名前は「**プリンス ダンコール ホテル & スパ**」で、今日から 3 連泊することになる。



なる。

旅行2

日目 **シムリアップでの初めての朝を迎えた**

6時から朝食のレストランがオープンしているというので出掛ける。**ビュッフェスタイルの朝食は、好きなものが欲しいだけ食べられて嬉しい。そして料理も美味しい!!**

レストランに入って見て、欧米人も勿論いるが、日本人がこんなにも宿泊していたのかと思うほどであった。



今日の観

光の出発はam 8:00 だ。朝食後、ホテルの外に出て観た。ホテルの外観や設備 それに周囲の街の様子が見えてきた。

ここは、**シェムリアップの市内中心部のセンターマーケット付近に位置し、買い物、食事など何かと便利な立地のホテルです**。また、広々としたロビーや2つあるレストラン、中庭に広がる大型のリゾートプール、フットマッサージから本格的スパも受けられるます。

空港より12

kmと近いのもいいですね。



□ロビーでは、

笑顔のきれいな女性が、竹製の木琴「**ロニアットアエク**」という**カンボジア**伝統楽器を弾いてくれていた。楽譜はなく耳で聞いて覚えるそうです。その音は、**なんとも清らかな澄んだ音色で、心癒される思いがしたものです**□**こんな音楽に導かれると、悩み事も自然と和らいでいくと、カンボジアの人々は考えているそうすよ**□



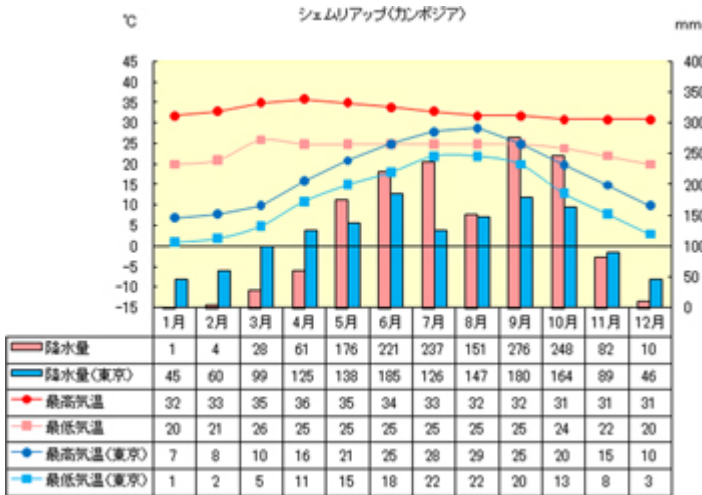
□この和やかで何ともほっとする雰囲気 その癒しの効果が認められて、近年では、あちこちのホテルでも、この伝統音楽を聴くことができるようになったとのことです□



さて、次の「第2話」から始まる**シェムリアップとアンコール遺跡群の観光**を前に、基本情報を、ほんの少しだけ、書き記しておきます□  
□**シェムリアップ**は、**カンボジア**の**シェムリアップ州**の**州都**である□□**アンコール・ワット**そして、**アンコール・トム**などを始め、**アンコール遺跡群**の**観光拠点**となっています。  
□**その他にも、300もの遺跡が町の周辺に点在している**とのガイドの説明でしたよ。まさに『**世界遺産の宝庫**』といった感じですね。 1953年、**カンボジアはフランス**







☐**シェムリアップの気候と服装**について書いておきますね。

アンコール遺跡周辺は年間を通じて高温多湿だけど、5～10月が雨季で・11～4月が乾季となるそうです。

現地の人々の服装は、男女ともあまり肌を露出しないのが普通です。現地の人々が長袖を着ている理由は『**肌を直射日光にさらすより涼しい**』からだそうです。

**11月～2月は、旅行にベストシーズン**となり、一年中で最も**凌ぎやすく、雨も降らず、カラット**して**いてベスト**だそうですよ。この頃は、朝 夜は肌寒いくらいとも聞きました。

時差は、日本時間からマイナス2時間です。

そして、カンボジアの通貨はリエル[Riel]ですが ... 私たちは、ほとんどのところで**USドル**あるいは**日本円**での支払いが出来て、不自由なく終わりました。

この国はチップの習慣は基本的にないそうですが、**1ドルや5ドル札**などの少額の紙幣を多く持って行かれると何かと便利ですね☐

次の「第2話」からアンコール遺跡のことを掲載する予定にしています。

☐見て戴いて、ありがとうございました!!

☐ではまた次回に .....